

P3-0861

(一社) 岡山県理学療法士会における学会・研修会の変遷と特徴について

武田 正則

(一社) 岡山県理学療法士会

key words 県士会主催研修会・士会員の要望・研修会の役割

【目的】

(一社) 岡山県理学療法士会(以下、岡山県士会)は、学術活動として学会や各種研修会を実施している。しかし、近年は業者や団体など行う研修会が多く開催されており、以前に行われていた県士会の県外や高名な講師の招聘といった役割は少なくなっている。今回は、岡山県士会での企画運営した研修会についてその変遷と特徴を検討し、研修会運営の参考とするために行ったので報告する。

【方法】

岡山県士会の過去5年間における県学会、特別研修会(日曜日1日コース)、卒後研修会(平日夜2時間コース)、新人カリキュラム研修会、支部主催研修会について、内容、講師、参加人数、受講者の感想・要望などを中心に検討した。

【結果】

学会・研修会の回数については、県学会は年1回、特別研修会は年3回、卒後研修会は年3~4回、新人カリキュラム研修会年は年1~5回、支部主催研修会は年4回を基本として行われていた。特別研修会は県外の講師が多く、分野別に多岐にわた行われている傾向があった。卒後研修会は県内の講師が多く、応用的な内容から基本的な内容へ変遷している傾向があった。新人カリキュラム研修会は県士会員の要望により年1回開催から年5回ほどの分散開催を含めたものに変遷していた。参加者は経験年数が少ない会員が多く10年以上の中堅や特に20年以上ベテランの参加は非常に少ない傾向にあった。

【考察】

研修会の内容については、特別研修会はトピックス的なものを扱うことを望んでいる傾向があった。卒後研修会は、基本的な知識・技術的なものを求めることが多かった。新人カリキュラム研修会は、A1~5が1日で取得できる1日研修の参加が多く、特に県外からの参加者が近年は増加している傾向にあった。多様化する現在の理学療法に関する研修会の中で、県単位の理学療法士会が担う役割を再構築する必要があるのではないかと考えられた。